

学校教育目標	夢に向かって、学び合い、心豊かに、たくましく生きる 丹生っ子の育成
育成を目指す資質・能力	基礎学力の定着と表現力・実践力の習得

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 【5年生大分県学習状況調査より R3.4月実施】 国語・算数・理科の3教科とも、全体の正答率が県全体の正答率を上回っている。 【6年生全国学力・学習状況調査より R3.5月実施】 国語は、全体の正答率が県・全国の正答率を上回っている。算数は、思考力、判断力、表現力等に比べ知識及び技能で県・全国との差が見られる。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 【5・6年学習状況児童質問紙より】 △思いを伝える力が低い・自分の考えを書いていてもそれを表現する児童が固定化されている。 △1日あたりの読書の時間が短い。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) 「自分の考えをノートやワークシートに書いていますか」の肯定的回答が94%である。1学期、算数科において既習事項を教室廊下側に掲示し、自分の考えをもたせるという校内研修の成果が表れている。また、それに伴い、「あきらめないで最後まで問題に取り組むことができた」と肯定的に回答する児童は98%に上る。各種学力調査においても無解答率は低く、日々の授業の積み重ねから、問題に取り組む姿勢が育ってきている。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・算数科における丹生小の授業スタイルが定着してきた。(めあて・つかむ・課題・見通し・解決・まとめ・振り返り) ・既習事項を教室に掲示し、授業の中で繰り返し学習する中で、既習事項(基礎・基本)の定着が見られた。 ・聞き方・話し方の指導に取り組んだ。 ・月1回の板書交流会を実施し、板書の構造化を目指した。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・算数科では、家庭学習指導やチャレンジタイムを活用することで基礎・基本の定着を図った。国語科では、全学年週末に読解力育成のプリントを配布し、月曜日に解説を行い、読解力向上に努めた。 ・学期毎に単元末テスト60点未満の児童の把握に努め、個人カルテ作成を行い、児童一人ひとりの学習状況の把握に努めている。 ・自主学習・家庭読書について指導を行った。	

学力に関する達成指標

- 単元末テストで80点以上を80%以上、60点未満を5%未満
- 各種学力調査で全国平均以上

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の具体的な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 (授業改善テーマ) 表現力・実践力を身に付けた児童をめざして (授業改善の重点) ・既習事項を活用して、自分の考えを書くことができる ・対話的な学びの場の設定により、自分の考えを深める	
	〈取組内容〉 ・既習事項を各教室に掲示し、子どもたちが基礎・基本を繰り返し学習できる場を設定し、自分の考えをもたせる ・ペア学習で自分の考えを伝えたり、聞いたりして、共に考えを練り上げる時間を設け、深い学び(考えの深まり・広がり・つながり)へとつなげる	〈家庭・地域の取組内容〉 ・1週間に1冊以上の家庭読書 ・テレビ等の時間を自分の生活に合わせて調整する
	〈取組指標〉 ・単元毎の重点プリントの実施と既習事項の教室掲示 ・既習事項を基に自分の考えを書いたり伝えあったりする授業の実践(1日1教科以上) ・月に一度の板書・ノート交流会【教員・児童】	〈家庭・地域の取組指標〉 ・読書日記を活用し、週に1冊以上読書するよう声かけ・サインをする ・「生活見直し週間」を学期に1回実施し、学習時間を守るよう声かけをする
	〈検証指標〉 ・「自分の考えをノートやワークシートに書いていますか」の児童の割合が9割以上 ・「自分の考えや意見を友だちに伝えることができますか」の児童の割合が9割以上 ・「1日1回以上、既習事項や生活体験を生かして自分の考えを書いたり、伝え合ったりしている」の教職員の割合が10割	〈家庭・地域の検証指標〉 ・保護者アンケート「子どもは、家庭では読書に取り組んでいますか」の肯定的回答7割以上
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ・全学年、個人カルテの活用 ・チャレンジタイムの充実(全学年、週末読解力問題プリントの実施) ・自主学習、家庭読書について指導 ・活用力を培う問題に取り組む(算数科の単元毎)	